

りません。もし土地強制収用ともなれば激しい反対運動が展開されましょう。

私は高速1号は四谷通から一社一本郷地区へと通過するよう、県側から市当局へ提案する余地はないかと尋ねます。同じトンネル方式であり、地下鉄とも競合せず、道路の幅員も広いので支障はないと考えられます。環状2号と東名古屋インターにも直線で結ばれることは、長期的な普遍的公共性に合致するものと存じます。

留保から撤回めざし

名古屋市議会議員 渡辺 アキラ

「静かな環境を守り高速道路に反対する会」の十年記念号に寄稿できることをまずもって感謝申し上げます。

名古屋市内でも数少ない緑につつま

れた快適な環境にある東山総合公園に接する「藤巻町」に、思ってもみなかった高速道路を通す計画案が五十年に出され、住民の皆さんの驚きと怒りの電話が私の家にも毎日と

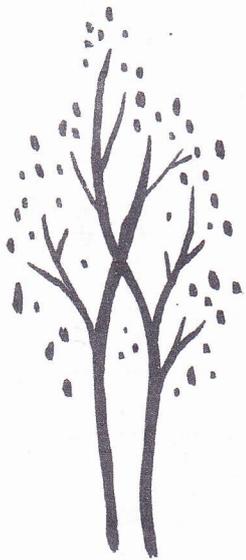


いっていいほどかかってきたことは、きのうのこのように思われますが、小学生であった私の息子もはや高校生になっていきます。

この十年間の皆さんのご苦勞は大変なものがあり、それを目のあたりに見て、私も微力ながら期待に応え「私の目の黒いうちは藤巻町に高速道路は通させない」よう、精一杯、市議会等の中で努力してきました。そして計画決定をさせず「留保」という状況をつくりだしましたが、これも皆さんの粘り強い運動の結果であります。

十年一昔といいますが、当時のあの熱気を忘れることなく「留保」から「撤回」に向け、さらに粘り強く運動の輪を広め、ともに喜び合えるよう祈念いたします。

私も微力ながら今後とも精一杯努力する所存であります。末筆ながら日ごろのご支援、ご協力に感謝申し上げます。



「鉄とコンクリートのまちづくり」から

「道路の上に緑地ができた」へ

名古屋市議会議員 本谷純子



昭和四十七年の秋、環状2号線の計画が耳に入りました。私の住んでいる上社北住宅では、国道事務所の整理組合への説明を人づてに聞いて驚きが広がりました。環2は国道へ格上げされていたこともあって、それが十二月の総選挙立候補者への高速道路についてのアンケート活動となり、反対運動が起りました。都市高速反対運動の人たちとの大阪方面視察、各地の運動との提携、勉強会……。五十年秋の藤巻町のみなさんとの出会い。息つく暇のない運動の展開となって行きました。

十三年を越える高速道路反対運動が、私にたくさんのごとを教えてくださいました。したたかな住民運動が私を励ましつづけているといった方が正確かも知れません。六十年春の市長選挙では、西尾陣営を「鉄とコンクリートのまちづくり」と、私どもは批判しましたが、その批判は残念ながらも的中していました。都市高の地下、半地下案が、住民不

在で、いともあっさりとは高架案に切り替えられたのです。

しかし、住民は黙ってはいません。ぜったいに。

この六月、私は、東京都清瀬市や千葉県流山市で高速道路が住民のねばり強い運動でついに地下、半地下になり、その「道路の上に緑地（遊び場）ができた」のを見てきました。「道路の上に……」は道路公害反対運動全国交流会が編集した運動の記録の名称ですが、もちろんこれは、道路に蓋をかけさえすればいい、というものではありません。私はここに「住みよいくらしよいまち」を実現する力を見る思いを強くするのです。

藤巻町の皆さんの運動が、ますます発展することをねがい、十年記念誌に拙文を寄せさせていただいたことを感謝しながら。

緑を守り、公害のないまち藤巻町をつくるため、ご一諸にがんばりましょう。

十周年を迎えて

藤巻町自治会長

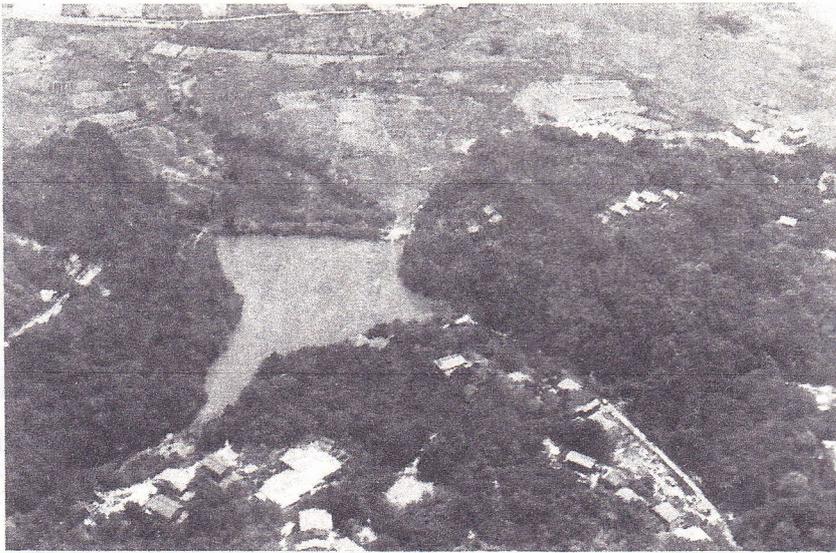
池田正之

名古屋市唯一の静かな緑地地帯の藤巻町に居住するわれ

われ町民は本当に幸せ、かつ誇りにしております。東山公園前を通る予定の高速道路が突如、藤巻町を縦断するとの計画が知らされて驚きと怒りを結集し、町民の大部分の方々が結束して「高速道路通過反対の運動」を起こし、当初は東山公園入口附近でアンケート配りや立て看板を立てて市民の方々に同意を求めました。その後、機会を見て、県庁、市役所の関係各部にも運動の主旨を訴え、特に逆転層、気流動向、大気汚染の調査に全力を挙げるべく、毎週日曜日早朝にゴム風船三十ないし五十個を飛翔させての計測実験を約六か年間にわたり行いました。この記録は、町民の結集によって果たした絶対に貴重な記録だと高く評価しております。

今後は動植物総合公園およびその周辺の緑を守り、公害による空気の汚染を絶対に防止するには藤巻ルート撤廃を目標として頑強な運動が必要だと思ひ、また信じております。

「静かな環境を守り高速道路（藤巻ルート）に反対する会」の諸役員方々の、過去十年余の間のご尽力に深く感謝するとともに、今後益々のご努力を期待申し上げる次第です。



新池付近（藤巻町三丁目）

会の歩み

会 発 足 まで

私たちの会を結成する動きは、昭和五十年春に始まった。その前々年の四十八年、名古屋に本山革新市政が誕生し、都市高速建設は見直しとなっていったんストップ。しかし、結局は「住民の理解と納得を得る」という前提で建設へ再スタートしたのだった。そして、ウワサが現実となって突然のように発表された計画変更素案には、高速道路1号線が藤巻町を真っ二つに割って通るという案が盛り込まれていた。それまで、鏡ヶ池線問題として騒がれていた1号線東部の計画は、東山公園の正門前を通過して藤ヶ丘方面へ抜け、東名高速道路のICへ結ぶというものだったが、それが東山公園の裏（南側）を通過して藤巻町を抜け、環状2号線の高針ICへ結ぶという案に変更されたのだ。

村田藤巻町自治会長（当時）が指名依頼した対策準備委員会。五月、市による変更素案の発表。藤巻町民の多くにとっては全く寝耳に水のこの計画変更案。驚きと怒り、行

政への不信、生命・財産への不安、静かで緑濃い環境が排ガスや振動や電波障害やの公害で損われる恐怖、さらには何年間もかかる工事で脅かされる毎日の生活の心配——そうしたことが自治会員それぞれの胸をよぎった。準備委員八回にわたる論議（個々には毎日のような話し合いも）、住民大会、全員アンケート、当局への陳情などを経て、自治会員94%の賛同によって会が正式発足したのは十月十二日の総会のことだった。

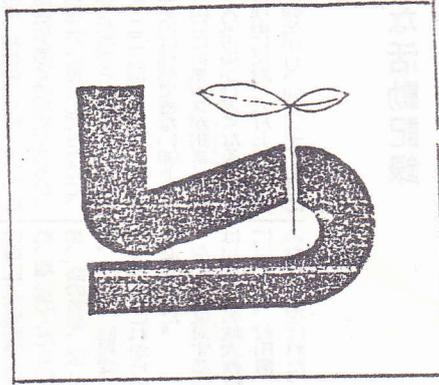
「静かな環境を守り高速道路に反対する会」が名称。早川文夫氏が初代委員長。委員長直属の運動本部（いわば参謀、企画役）と交渉、連絡、調査、研究、広報、財務の六つの部という強力な組織だった。

※自治会員のほとんどが本会会員なので、別組織をつくらず自治会で運動すればよい、との意見もあった。しかし、村田自治会長が「問題が大きすぎ、自治会では十分対応できない。私は副委員長になるから別組織、別役員で進めてほしい」と要望され、早川委員長へのお願いと、各役員構成を終えて発足したわけだった。会の趣旨は、全員参加と民主的で科学的な、そしてユニークな運動を進めようということ。むろん、政治的には不偏不党。住民エゴに走らな

「書に反対し静かな環境を守ろう」というものだった。役員は重任を妨げないもの交代制がよい、ともされた。しかも本会と自治会とは、あくまでも連携して進むというのが確認事項だった。

初年度の活動

昭和五十年十月十二日の第一回総会は七十人が出席し、和やかながら、緊迫した雰囲気だった。経過報告、役員選出・各部委員選出（総計78人）、早川委員長の「市の計画変更素案は私たちにとって大変迷惑。しかも都市計画としても高速道路を再検討し公共交通機関を充実させるのは当然のこと。長期にわたると思われるが粘り強く運動を続け、各方面の協力も得てお互い努力したい」とのあいさつで盛



会のマーク

り上がった。来賓の本谷市議、渡辺市議（代理）からも「反対の意志は不変。協力は惜しまない」との激励もあった。

町内へのPR文書配布やアンケート、お知らせ配布などは会発足以前から再行われたが、広報の第一号「藤巻だより」の発行は十二月一日だった。内容は「反対の看板立つ」「市当局と委員長ら幹部会談」「道路公害反対全国住民交流集会に参加」「大気汚染調査行動に参加」「学区公職者と不在地主調査に着手」「本年度運動資金（一世帯二千元・10〜12月分）集まる」などだった。

藤巻町の騒音調査、名古屋都市高速道路反対連絡協議会への出席も実行した。各部での運動計画案、づくりも進んだ。

例えば、運動本部は総合計画立案推進、情報収集、講演会・勉強会、の開催など。交渉部は報道機関や世論の同調を喚起する努力、市・県議との折衝、市当局者との定期懇談、区行政者との交渉など。広報部はわかりやすい「藤巻だより」の最低月一回の発行・配布、反対看板の各所設置など。連絡部は外部諸団体との接触。調査部は陳情の資料、づくり、県・市・公団の高速道路建設計画の状況調査、司法問題との取り組みなど。研究部は騒音、排ガスの研究と調査、資料づくり。財務部は会費集金、会計業務の確立などだ。

ちなみに初年度の収入は会費が二十五万三千元、そして支出は八万六千六百三十二円。十六万六千三百六十八円が次年度へ繰り越された。

『静かな環境を守れ』

名東区 藤巻町 高速道反対の会誕生

名古屋都市高速道路に反対する会が、十日、また一つスタートした。同日発足したのは名東区藤巻町の自三十五世帯で作った『静かな環境を守る、高速道路に反対する会』。市内には、すでに四十世帯を超える反対する会があるが、名東区では七つ目。

市は五月二十七日、名古屋都市高速道路の変更案を公表したが、この変更案によると、環状2号線と高速道路1号線を通る藤巻池線が閉鎖になり、名東区藤巻町など東山公園付近を通ることになっている。藤巻町は、小さな益地状になっており、トンネルの高速道路はこの部分で高架になる。この案を知った地元では藤巻町は、緑地帯、鳥獣保護区、風致地区など多くの制約があるが、住民はこれに協力してきたのに、本来それを守らなければならない市が、ここに環境を破壊する道路を通すのは理解できないと、トンネルの出口に排気ガスが集まり、同町の大気汚染がひどくなる一などを理由に反対。六月上旬、準備委員会を作り、同日二十七日に

は、市長に反対の陳情をするなど、反対の準備を進めてきた。反対する会設立大会は、十日午後三時三十分から、名東区藤巻町の西山下水処理場内新修第一開の西山の人たち約五十人が参加、会の名称、役員を決め、今後、年内に、同程度の反対陳情を行うなど、これからの活動について話し合った。

なお、同反対する会の委員長には早川文夫名城大教授、副委員長には林田豊、村田重、南川利子のみなさんが選ばれた。

昭和50年10月13日付

反対の対策準備委員会が自治会長指名の15人で発足。市と市議会へ住民反対署名簿を添え陳情書提出。

7月 住民のアンケート調査で94%が反対とわかる。

10月 「静かな環境を守り高速道路に反対する会」が第一回総会で発足。早川委員長はじめ代表一行が市当局へ抗議。

11月 高速道路反対の大看板が二丁目岡田さん所有地内に立つ。

12月 「藤巻だよりNo.1」発行。町内の騒音、大気汚染など環境調査を行う。

昭和51年度の活動

新春一月二十五日、第二回総会が開かれた。水野宏名大教授の「高速道路に伴う公害について」の講演を聞いたあと、各部からの活動報告、五十年年度の決算承認、五十一年度の予算決定（会費は月五百円）などがあった。筒井県議、本谷市議、渡辺市議（代理）らの来賓出席もあり、名古屋高速道路反対連絡協議会への加盟も決まった。この総会と会の活動ぶりは新聞にも大きく掲載さ

昭和50年度の主な活動記録

50・6月 市の名古屋都市高速道路変更案の発表に伴い、自治会長招集の住民大会開く。高速道路